

# 近現代短歌のグループ発表について

## 【今後の作業手順】

- ①三人一組のグループ（但し男女混合）をつくる。

- ②指定された短歌をクラス内で分担する。

その際、**郷土の短歌**については歌碑の写真を撮ってきて、「資料」に掲載してもらうことを条件にするので、希望を尋ねる。

- ③分担の短歌について、校内外の図書館・インターネット・実地見聞（郷土の短歌については周辺に解説板や記念館などがある）などで調べ、「資料」を作成する。

- ④後日、授業で「資料」をもとに発表をする。

その際、**ポイント**になる箇所を幾つか空欄にし、授業時に明らかにする。

空欄は、授業時に発表者が発問し、他班の人に解答してもらうスタイルを基本とする。

（解答は「資料」の裏面に鉛筆書きをしておく）

- ⑤発表終了後の文化祭で、展示する予定である。

## 【資料の掲載内容】

※授業で配付・説明した「見本」プリントを参考にして作成する。

○紙面を縦長に置き、縦書きとする。

- 「資料」はそのまま印刷・配付するので、H B以上の濃度の筆記用具で記入する。ワープロ等の使用は不可。ポイントとした発問箇所は赤枠の空欄とする。

○掲載内容は次の五項目を必須とするが、レイアウトや紙面の使い方は自由とする。

- ①作品解釈（語句と文法・通釈）

- ②作品鑑賞

- ③作者紹介（略歴・歌集名と代表作・主な業績・エピソードなど）

- ④参考資料名（書名・出版社名、ホームページアドレスなど）

- ⑤視覚的資料（写真や図絵など）

## 【参考図書　II】「作者紹介」のために活用してもらいう

※「見本」プリント掲載以外に、次の書籍が本校図書館にある。

『現代短歌辞典（岩波書店）』『名歌名句辞典（三省堂）』『和歌鑑賞辞典』

『現代短歌大事典』『短歌の解釈と鑑賞事典（旺文社）』『日本の詩歌 1～30』

『現代短歌全集 1～15』『展望 現代の詩歌——短歌I～III』『現代百人一首』

※インターネットのホームページについては、書き換え可能な部分もあり、信憑性に欠ける部分が書籍類に比べて多いため、引用する場合は安直・鵜呑みにせず、充分検討した上で利用する。

## 【おわりに】

※調べてもらう短歌については、そのほとんどがさほど有名な作品ではありません。したがって、**解釈**と**鑑賞**は自力でやつてもらう可能性が大きいと考えてください。それが本単元の「ねらい」でもあります。